

# JASIS 関西 2025 見聞録

## (Japan Analytical & Scientific Instruments Show)

2025年1月29日(水)~1月31日(金)の3日間、グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)(写真1)で開催されましたJASIS 関西 2025に参加してきましたので、その参加報告いたします。

今回のJASIS 関西 2025の参加に際して、一般社団法人日本分析機器工業会 JASIS 委員会委員長の傍嶋様、事務局長の長谷川様から JASIS 関西 2025 の概要や特徴を伺いました。JASIS (Japan Analytical & Scientific Instruments Show) とは、一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA) と一般社団法人日本科学機器協会 (JSIA) が共同で開催している分析・科学機器に関する展示会のことです。例年9月に千葉県の幕張メッセで開催されています。幕張メッセでの開催では来場者の勤務先の約7割5分(JASIS2024実績)が関東周辺で占められるため、関東まで足を運べない分析機器ユーザーの要望ならびに近畿圏の新たな顧客獲得のため、2019年にJASIS 関西が大阪で初めて開催されたとのことでした。この当初の目的通り、JASIS 関西では、近畿圏からの来場者が約8割、機器購入について決定または検討・助言できる立場の方が約6割参加(JASIS 関西 2023実績)となっております。そして、2年に一度のペースでJASIS 関西の実施が予定されており、今回が3回目となっております。今年のJASIS 関西 2025は、「測る」が支える未来の社会というキャッチフレーズで開催されました。

以下、実際に参加体験した報告です。

JASIS 関西 2025での10階セミナー会場におきましては、分析・科学機器業界注目のトピックスごとに、専門家や有識者が「現在社会に求められている様々な課題解

決やヒント」につながる講演・解説という目的の下、「トピックスセミナー」が企画されました(写真2)。JASIS(幕張)でも人気の高いJAIMAセミナーや日本薬局方、環境セミナーに加えて、量子やライフサイエンスも企画されていたのは筆者らにとって斬新でした。入場開始時刻から並ぶ人、そして、座席数を超える申し込みおよび参加で、盛況でした。筆者らも、JAIMAセミナーに参加したのですが、分析を業務としている筆者らにとっても学び直しのいい機会となる内容のセミナーでした。



写真2 トピックスセミナーの様

また、出展社によるセミナー「新技術説明会」が行われ、出展社23社による72タイトルが用意され、各社の最新の技術および特徴、そして機器分析に関するノウハウまで幅広い内容で講演が行われていました(写真3)。



写真1 グランキューブ大阪



写真3 新技術説明会の様



写真4 展示会の模様

さらに、グランキューブ大阪の3階イベントホール全体を用いて、出展小間数105社188小間という盛大かつ活気のある展示会が開催されました。これはJASIS関西2023（出展小間数100社179小間）を上回る数字とのことです。また、今回、JASIS関西に限って出展される企業が21社あり、JASIS関西の重要性および必要性が幅広く認知された結果と思います。分析機器の展示に加えて、分析器具/消耗品類の展示もありました。機器分析において、装置の重要性は勿論ですが、分析器具の選定も重要であることを再認識いたしました。また、ロボットやAIといった語句が展示でも見られ、今後、分析操作においてもロボットやAIの重要性が益々増加していくものと実感しました（写真4）。

ところで、JASIS関西2025では来場特典として、科学・分析機器総覧/分析機器の手引きが無料で配布されていました。科学・分析機器総覧2025には社数：291社、製品数：2408製品の科学・分析機器・消耗品が収録されており、機器および消耗品の購入品の際に、科学・分析機器総覧2025は重宝すると思います。また分析機器の手引きは、各機器の特徴、機能、用途などが記載されているため、新たに機器分析を行う際には便利であります。よろしければ、webでも一部閲覧できるようなので、ぜひご一読ください。

この様に、活気あふれるJASIS関西2025でありました。事実、JASIS関西2025の来場者数は、3日間合計で

4023名でありました（初日が1328人、2日目が1465人、最終日が1230人）。前回のJASIS関西2023では3日間合計の来場者が3209名でしたので、JASIS関西2025の認知度および重要性の高さ、盛況ぶりがわかります。来場者は、近畿地方からが最も多く、今回初めてJASISの展示会に参加された方も少なくなかったそうなので、出展各社にとっては新たな顧客情報を取得できる良い機会になったことと思います。ユーザーにとっても、カタログやwebで見るとは異なり、実物を目で見て・触れて・操作し、そして、担当者と名刺交換や意見交換できるいい機会になったと思います。そして、これこそが展示会の醍醐味であり、改めて対面での展示会の重要性を認識しました。

ところで、他の展示会の場合、各社商品の展示およびアピールのみといったケースが多いかと思えます。一方、JASISは、各企業から人が集まって、人材教育、今後の社会課題に対する分析機器の果たす役割、分析機器ユーザーのニーズなどを議論して運営されておられるとのこと。このため、単なる展示会ではなく、業界全体で分析機器の発展、分析者の育成を目指すといった熱意を感じとれました。今年9月にJASIS2025 (<https://www.jasis.jp/>) が開催されます。JASIS2025は「リアル」と「オンライン」のハイブリッド出展を軸に開催となっているとのことでした。（幕張メッセ国際展示場・会議場：9月3日（水）～9月5日（金）、web：7月4（金）～10月31日（金））。自分の都合のいい時に情報にアクセスできるwebの強みと、機器を見て・触れて・操作する体験や担当者との意見交換といったJASISが有している強みを活かした展示会となっているそうです。JASISに参加したことのない方、機器分析の最新の情報を入手したい方、分析のノウハウ情報を入手したい方など、JASISに参加してみたい方はいかがでしょうか？

最後になりましたが、大変お忙しい中、取材を引き受けていただき、本稿執筆にも多大なご協力を賜りましたJASIS委員会委員長の傍嶋様、事務局長の長谷川様に、この場を借りてお礼申し上げます。

〔大阪大学大学院基礎工学研究科 岡本 行広〕  
〔大阪大学大学院理学研究科 諏訪 雅頼〕